一般会計予算を家計に置き換えると……

一般的に個人の家計と市の財政は、規模やお金の使い道も違うので単純には比べることはできませんが、市民生活に最も関わりの深い一般会計予算153億4、000万円を、年間の収入支出が500万円とした「こうし家」の一カ月の家計に置き換え、家計簿に例えてご説明します。

こうし家 1カ月の家計簿

《収入の部》

○給　与	38万3,470円
	(10.8%増)
基本給	15万7,610円
【市税、分担金・負担金など】	(0.3%減)
諸手当	22万5,860円
【地方交付税、国県支出金など】	(20.1%増)
○ローンの借入れ	3万3,030円
【市債】	(23.0%減)
小　計	41万6,500円
	(7.0%増)
○貯金の取崩し	170円
【基金繰入金】	(99.4%減)
合　計	41万6,670円
	(0.1%減)
○貯金残高	129万7,320円
【基金期末見込み高】	(17.4%増)

《支出の部》

○食　費	7万8,530円
【人件費】	(0.8%増)
○光熱水費、通信費など	4万7,670円
【物件費】	(12.7%増)
○医療費	11万6,060円
【扶助費】	(34.0%増)
○ローンの返済	4万3,570円
【公債費】	(10.6%減)
○家、車、家電の購入、修理	3万2,520円
【普通建設事業費、維持補修費】	(31.3%減)
○家族への仕送り	9万6,970円
【繰出金、補助費など】	(14.1%減)
○その他の諸費	1,350円
【積立金、貸付金など】	(3.6%増)
合　計	41万6,670円
	(0.1%減)
○ローン残高	535万3,800円
【市債期末見込み高】	(0.2%増)

※実際の数値とは一致しません。
※(　)内は、21年度と比べた増減率です。

家計簿チェック！

1カ月あたりの収入支出について、それぞれご説明します。

《収入の部》

■給与のうち基本給は前年度に比べ、0.3%減っています。この基本給は皆さんが納めた「市税」などの「自主財源」にあたるものが主で、減った理由は、前年度からの繰越金などを少なく見込んだからです。

■給与のうち諸手当は前年度に比べ、20.1%増えています。この諸手当は「地方交付税」などの「依存財源」にあたるものが主で、増えた理由は前年度の基本給のうち「市税」が少なかったことの影響を受けて、「地方交付税」の増加が見込めるからです。

■ローンの借入れが前年度に比べ、23.0%減っています。減った理由は、はじめにご説明したとおり、今年度予算を骨格予算とし、政策的経費にあたる市道や公園整備などの建設工事などの予算を計上していないためです。この分のローンの借入れが減っています。

■貯金の取崩しが前年度に比べ、99.4%減っています。これは前年度にあった法人市民税の還付金などの一時的な経費の支出が減少したため、貯金を取り崩さなかったからです。

《支出の部》

■食費が前年度に比べ、0.8%増えています。これは3年に1度の参議院議員選挙や5年に1度の国勢調査などにかかる費用が増えたからです。

■光熱水費、通信費などが前年度に比べ、12.7%増えています。これは主に市の頭脳と言うべき情報電算ネットワークの機器更新にかかる経費などが増えたからです。

■医療費が前年度に比べ、34.0%増えています。これは新政権が創設した「子ども手当」などが増えたからです。

■ローンの返済が前年度に比べ、10.6%減っています。これは前年度にあった市債の繰り上げ償還分がなくなったからです。

■家、車、家電の購入、修理が前年度に比べ、31.3%減っています。これは当初予算を骨格予算としたため、市道や公園整備などの建設工事などの予算を少なく計上しているからです。

■家族への仕送りが前年度に比べ、14.1%減っています。これは企業への法人市民税の還付金が減少したためです。

市の借金や貯金はどうなってるの!?

市の借金を「市債」と言います。「市債」は家を建てたり、車を買うためにローンを組むのと似ています。例えば、何十年も使われる道路や学校、公営住宅を造るには、一度にたくさんの資金が必要です。市債の借入で費用をまかない、長い時間をかけて少しずつ返済すれば、資金準備も楽になり、それらを利用するどの世代の人々も公平に負担することになります。平成22年度のローン残高は前年度に比べ、0.2%増えています。増えた理由は、給与のうち諸手当にあたる普通交付税の振替分として発行される「臨時財政対策債」や、合併団体のみが発行できる「合併特例事業債」が増えたからです。これらは返済金が諸手当「交付税」で全部もしくは一部がまかなわれる優良ローンです。

今年度末の市債残高は164億2、500万円を見込んでいます。

市の貯金を「基金」と言います。家の建替えなどの決まった目的に積み立てたり、収入が減った場合や予測できない支出があった場合に備えて積立てるものなどがあります。貯金残高は前年度見込みに比べ、17.4%増えています。これは前年度にあった法人市民税の還付金や、市債の繰り上げ償還がなくなったからです。

今年度末の基金残高は、39億8、000万円を見込んでいます。

●骨格予算とは？

首長や議会の議員の改選を目前に控えている場合など、1年間の行政活動をすべてにわたって予算計上することが困難、あるいは適当でないと判断した場合、新規の施策などを見送り、また、政策的経費を極力抑え、義務的経費を中心に編成された予算を言います。

この場合、次の議会で補正予算として政策的な経費など、骨格予算で計上されなかった経費を肉付けして予算編成することになります。